

はしがき

地球 (globe) は1つの星である。月面着理に成功した宇宙船アポロ11号から地球の姿が映し出されたとき、私は初めて小さな惑星の地球をみた。高校3年生の1969年のことである。私は、テレビ画面に食い入るように日本列島を探し、半信半疑で自分自身を探し求めた。その小さな星の上で人々は領土争いを行い、いがみあっている。地球上から戦争をなくし、平和で安全な人類共同体など夢物語なのであろうか。全地球上に共同管理と共同統治の仕組み、すなわちグローバル・ガバナンス (global governance) の構築の術はないのであろうか。

およそ20年前まで、東西に分断された国際社会は国家の共治と統治の様式、すなわち国家ガバナンス様式の正当性をめぐって争った。その冷戦で人類は核戦争の危機、人類滅亡の危機に直面したほどである。冷戦が終結し、核戦争の危機がひとまず後退したとは言うものの、人間の安全の視点に立てば、冷戦後の世界に平和で安定した国際社会が到来したというわけではない。それどころか人類は新たに地球環境の危機に直面すらしている。そうとは言え、冷戦が終結し国際社会の分断が克服されると、国際政治、国際経済、国際法の諸領域が全地球大へ拡大するというグローバル化の動きが加速した。それに国家ガバナンスの模範としてのグッド・ガバナンスのグローバル化の動きが始まり、紛争後の平和構築、予防外交、移行期正義、グローバル正義、さらには人間の安全保障、保護する責任など人間の安全を中心に据えたグローバル・ガバナンスに向けた動きが力を持ってきた。

本書は4部構成である。第1部「グローバル化の基層」では、経済、政治、社会、法の各領域の国際化からグローバル化への進展を歴史的文脈の中で追いつつ、大筋を概観する。冷戦の終結によってそれまで東西に分断されていた国際政治場裏が壁が撤去され、それにインターネットの急速な普及によって時空が一気に短縮されたことで、グローバル化の波がそれぞれの領域にどのように押し寄せているのか。

第Ⅱ部「グローバル化と地域主義」では、地域別にグローバル化への対応の相違を明らかにする。グローバル化の進展が地域主義の動向にどのような影響を及ぼしているのであろうか。欧州・大西洋地域（欧州連合EUとNATO）、中東（アラブ連盟）、東南アジア（東南アジア諸国連合、ASEAN）、中国・ロシア・中央アジア（上海協力機構、SCO）、米州（米州機構、OAS）、アフリカ（アフリカ連合、AU）の各地域およびそれを束ねる国際機構を中心に新地域主義の動向を探る。

第Ⅲ部「トランスナショナル関係の新展開」では、グローバル化の進展とともに脱領域国家化、脱国民国家化に拍車がかかり、そのことで従来の国家中心主義の国際政治パラダイムが変容していく模様を明らかにする。台頭が著しいグローバル市民社会、それを縦横に貫くグローバル・ネットワークの諸相を明らかにするとともに、冷戦の終結後に始まる「新戦争」、国際テロリズム、そしてディアスポラ政治の諸相を明らかにする。

第Ⅳ部「求められるグローバル・ガバナンス」では、グローバル・ガバナンスの形成が強く求められている種々の領域を、領域別に取り上げ、その実現可能性を探る。国連の人権ガバナンスの現状、武力・兵器のガバナンスの現状、森林と気候変動のガバナンスの現状、国際犯罪に関する法秩序のガバナンスの現状、さらには人間の安全保障ガバナンスの現状とその限界を明らかにする。

グローバル・ガバナンスは、はたして実現可能であろうか。グローバル化の諸相と諸問題を明らかにすることで、本書がグローバル・ガバナンスの行方を考察するうえで、一助となれば幸甚である。

2013年8月29日

編者を代表して

吉川 元